大村くんはどんな人?

昨年PONOS NAKAJIMA RACINGのリザーブドライバーを務め、2025年からは65号車のレギュラードライバーとなったイゴール・オオムラ・フラガ選手。彼に関してまだまだ知らないことが多くあるので、色々と質問をしてみました!

父が昔からクルマが大好きだったんです。経済的にそれほど裕福ではなかったのですが、親戚がブラジルでカートコースの経営をしていて、そこでやっていたスクールのカートを整備する代わりにレースに出場させてもらっていたそうです。だから、僕が生まれたときからクルマはとても身近で、僕もクルマが大好きになりました。たしか3歳の誕生日にグランツーリスモをプレゼントしてもらって、アクセルペダルやブレーキペダル、ハンドルの握り方など教えてもらって、4歳でカートのライセンスを取り、週末はカートコースに行くようになりました。

――小さいころからカートに乗っていたんですね。

キッズカートからジュニアへと上がり、僕が参戦したレースでは国内で7回ぐらいチャンピオンを獲りましたね。そのあと、アジアのカートレースにも参戦し、チャンピオンになりました。ただ、そのタイミングでリーマンショックが起きてしまい、11歳の時に一度レースをやめることになったんです。もう一度レースに復帰したのは、16歳ぐらいのときです。その時には家族みんなでブラジルに戻っていて、向こうで四輪ライセンスを取得して、四輪レースデビューしました。当時のブラジル国内には今のミドルフォーミュラのようなカテゴリーはなく、もう少しグラスルーツに近いというか、そういったレースでしたね。当時乗っていたのはHパターンのシフトで、空冷エンジンのマシン。復帰シーズンは、7戦に出場して4戦で表彰台。そのうち1回は優勝です。そのレースはコースレコードも書き換えました。

――グランツーリスモは続けていたんですか?

はい。やっぱり楽しかったですから。レースを休んでいる間もグランツーリスモは続けていたので、練習にはなっていたかもしれません。ある意味、ずっとステアリングは握り続けていました。2014年ごろだったと思いますが、グランツーリスモから生まれた「GTアカデミー」というプロジェクトがグローバル化していた時期で、僕もグランツーリスモを頑張ればリアルのレースにつながるチャンスをつかめるんじゃないかと気づき、そこからは趣味という意識からは切り替わったように思います。2014年はギリギリで予選には通ったものの、GTアカデミーに参加できる年齢に届いていなかったので(参加資格は18歳以上)、参加資格を得られるまでにもっと腕を磨こうと頑張っていたのですが、GTアカデミーが2016年で終了してしまい、そのルートでのチャンスをつかむことができませんでした。

――2018年にグランツーリスモの世界大会でチャンピオンに!

GTアカデミーはなくなってしまったけど、グランツーリスモを続けていればまたチャンスが来るかもしれないという希望を持ち続けていました。実はグランツーリスモの世界大会に行く前に、F1のeスポーツ大会にも出て、そこでワールドファイナルまで進みました。使っている機材がいつもと違っていて、その環境に慣れることができずに結果は良くなかったのですが、その経験がグランツーリスモの世界大会には役に立ちましたね。あれがあったからこそ、グランツーリスモでもすごいパフォーマンスを出せたんじゃないかなと思っています。

――リアルでのレース活動は、その頃はどうだったのでしょう?

2015年にブラジルのF3に参戦しました。2017年にはフル参戦して、アカデミークラスのチャンピオンを獲れましたね。そのシーズンオフには、メキシコのF4にも参戦してシリーズ2位。2018年はアメリカに渡ってU.S.F2000という選手権に出てシリーズ4位でした。その翌年は、グランツーリスモの支援を受けてヨーロッパのフォーミュラリージョナルに参戦し、シリーズ3位。2020年の年明けには、トヨタ・レーシング・シリーズという、ヨーロッパのレースシーズンが始まる前に行なうシリーズに参戦しましたが、その時のチームメイトは角田裕毅選手やリアム・ローソン選手でした。その中でシリーズチャンピオンを獲りました。

――F1を戦っている選手と同チームだったんですね。

はい。2020年はレッドブルジュニアにも一時期加入をしていて、FIA F3で戦っていました。ただ、この年は非常に厳しいシーズンになり、さらにちょうどコロナ禍と重なって、資金的にも苦しくなってしまい再びレース活動を休止することになりました。復帰したのは2023年。2022年の終わりに日本に引っ越してきて、SUPER FORMULA LIGHTS、SUPER GTと国内のレースを戦えることになりました。

――ヨーロッパ、アメリカ、様々な国でレースを戦ってきたんですね。

そうですね。たぶんアフリカ大陸以外は全部回ったことがあると思います。レースではないですが、テスト走行でバーレーンも走ったので中東にも行きましたし、カートではフィリピンやタイ、インドネシア、マカオにも行きました。

――そういったキャリアもあって、イゴール選手はマルチリンガルなんですね。

生まれてから12歳までは日本に住んでいたので、家の外では日本語をしゃべる機会が多かったですね。でも家の中ではポルトガル語オンリーでした。あとは欧米でレースしていたので英語と、スペイン語も少し分かります。もう1言語取得できるなら、イタリア語がいいかなぁと思っています。

――趣味は何ですか?

ドライブやシミュレーター、クルマに関わることが好きですね。あとは音楽を聴くこととか、コーヒー。家の近くでコーヒー豆を焙煎するところがあるので、SUPER FORMULAのレースウィークにはそれを持ってきています。ホスピタリティテントでも出しているので、ぜひ飲んでみてほしいですね。

――ここから先の目標を教えてください。

まずは、今参戦しているSUPER FORMULAと、SUPER GTで速いドライバーになりたいですね。将来的には他のカテゴリーにも挑戦したいですし、どのレースで走っても速いドライバーになりたいです。

――スポンサーの皆さまに一言。

皆さんの支えがあって、NAKAJIMA RACINGでSUPER FORMULAを戦うことができています。本当にありがとうございます。速いドライバーになるという自分の目標に向けてはもちろんですが、皆さんのサポートにお返しできるように、自分の力を出し切ってチームと力を合わせて結果を出していけるように頑張ります。引き続き応援よろしくお願いします!